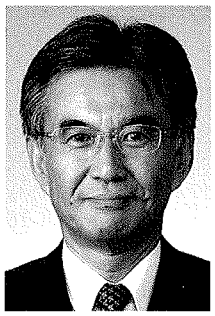

巻頭言

生産現場の課題を解決するために

全国農業協同組合連合会　常務理事　**山﨑周二**

現場で困っている課題・問題に対して，どのように対応するか，また解決策を提案していくのか，これは事業を進めるにあたっての重要な視点です。

生産現場での雑草防除における課題として，抵抗性雑草の発生があります。スルホニルウレア系除草剤に対する抵抗性雑草は全国に広がっており，これまでは効果のある既存成分を含有した剤を提案してきましたが，これらの剤では対応しきれない雑草が発生してきました。また，畦畔管理や圃場管理が十分にできていない圃場が増えているためか，イボクサ，クサネムなどの特殊雑草が発生する圃場が多くなりました。一方で特別栽培への対応で，成分数の少ない薬剤が求められています。

全農の共同開発品目であるテフリルトリオン剤は，抵抗性雑草や特殊雑草防除，また低成分剤に対するニーズ，という，まさに生産者の課題を解決できる剤として登場し，本年東北，北陸を中心に多くの圃場で使用されました。

多くの現場からは，よく効いた，との声が聞かれましたが，一部の圃場では期待どおりの効果が得られなかった，という事例もありました。残念ながら水管理が不完全で止め水がされていなかったり，かけ流しされていたりしたため，除草剤の効果を十分に発揮できなかった圃場もあったようです。散布した除草剤をしっかり効かせるためには，除草剤を散布する際の基本である，田面を均一にする，湛水深をしっかり保つ，そして処理後７日間の止め水を実行するというあたり前のことを，生産者に実行してもらうことが大事です。しかし，除草剤がどういうしくみで効果を発揮しているのか，なぜこれらを実行しなければならないのか，きちんと理解している生産者は案外少ないかもしれません。生産者に，これらを理解してもらうことができれば，除草剤の散布において基本を守ることも容易になるのではないでしょうか。今後はこのような視点からの指導も大切かもしれません。

また同様に，農薬の農産物に対する安全性確保のしくみがわかれば，農薬の適正使用にもつながり，また自信をもって農薬を使って農作物を生産することができるのではないかと考えられます。

農薬の適正使用の推進にあたって，全農では「安全防除運動」を昭和46年にスタートさせ，今年ちょうど40年目となりました。「生産者・農産物・環境の安全」を基本に運動を展開し，生産者に対する啓発活動，情報発信などに努めてきました。現在，これからの新しい運動の取り組みをいくつか検討しているところですが，ひとつは，生産者に農薬の安全性確保のしくみなどについて理解してもらい，自信を持って農産物を作れるような運動にしていきたいと考えています。また，生産者から消費者への情報発信の強化も必要でしょう。これらの新しい「安全防除運動」の取り組みが，国産農産物の販売拡大という現場の課題解決につながることを期待しています。

新しい薬剤の開発，正しい除草剤の使用方法の普及，安全防除運動の展開，いずれも生産現場の課題解決につながるように，全農の機能を発揮していきたいと考えています。